

檜原市立小・中学校トイレ洋式化改修標準仕様書（令和 7 年度）

老朽化した学校のトイレについて、明るく清潔で快適な環境へと改善することを目指し、洋式化を中心としたトイレの改修の仕様について以下のとおり定める。

I 仕様の対象・考え方

校舎棟の既設トイレにおけるトイレ洋式化改修について、この仕様をもとに設計・施工する。

原則、下記のとおりとするが、プロポーザルの審査で事業者が決定・契約後において、トイレの仕様・便器の数等については、市及び対象校との協議（以下「協議」という）のうえ柔軟に対応する。

II 必須事項

次で定める事項は、提案のうち、必ず含めるべき事項にかかるものの標準となる仕様であるが、より機能が向上する別の提案を妨げるものではない。

1 一般事項

（１）洋式・和式便器設置の考え方

改修対象となる大便器については、洋式便器とする。

（２）トイレブースなどの寸法

通常のトイレブース寸法は、内開きの場合は 1,300mm×900mm 程度を、外開きの場合は 1,200mm×900mm 程度を目安とし、使用者が支障なく使用できる大きさとする。

（３）色遣い

ブース・便器などを改修する場合には、全体の色遣いについて協議を行う。

（４）トイレの床の仕様

既設はタイル仕上（ウェット方式）である。便器の配置換え等を行い、既設防水に影響を及ぼす場合は、下階に漏水の影響が無いように改修を行う。（２）機械工事ア．に示す衛生機具の場合、防水、仕上げ復旧について、メーカーが推奨する工法により、工事管理を行う。

ただし、ドライ方式を提案することを妨げるものではない。

（５）仮設トイレ等

原則、仮設トイレは設置しない。

児童・生徒の利用を最大限考慮したローテーション案を計画・協議し工事を行うこと。

（６）ハツリ工事等

ハツリ工事等の騒音が大きい工事については、授業・学校行事等を優先し、原則、授業時間外、長期休暇及び学校休校日等学校運営上支障がない日に工事を行うこと。

（７）アスベスト

天井材及びアスファルト防水等の建材に含まれるアスベストに関しては、法令を遵守し調査及び除去作業を行うこと。

（８）生コンクリート

生コンクリートについては、下記の条件全てを満たすものを使用しなければならない。

- ・奈良県産品
- ・JIS マーク表示認定（認証）工場産品
- ・適 工場産品（全国品質監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場での生産品であること。）

適正なコンクリート工事実施に関わる受注者の遵守事項を遵守すること。

標記の遵守事項は橿原市公式ホームページに掲載しています。

(9) 使用材料、資材等の制限

当該工事に使用する各種材料、資材等（JIS 製品は除く）は、試験結果が契約日から 3 年以内のものに限る。（ただし、上記により難しい場合は、市の監督員の承諾を得て使用することができる。） 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成 12 年法律第 104 号）に定める特定建設資材廃棄物については、県内の再資源化処理施設において処理すること。

2 児童・生徒用トイレ

(1) 建築工事

ア 撤去した和便器周囲の仕上補修

- ・既設仕上材同等の仕上げとする。
- ・便器カット部周辺は塗膜防水を行うなど下階に漏水の影響が無いように補修を行うこと。

イ トイレブースの取替

- ・トイレブース及びパーテーションはポリ合板フラッシュトイレブース（アルミ枠、ステンレス幅木、笠木蓋付き）とする。
- ・ヒンジに関しては軸吊式グレビティヒンジを使用する。
- ・トイレブースのスライドラッチは表示付きとし、非常開錠装置付きとする。
- ・トイレブースの扉は内開きを標準とする。ただし、どうしても入らない場合は外開きも可とする。
- ・トイレブースの扉が外開きの場合は、安全性を考慮し通路幅を確保すること。
- ・トイレブースの扉が内開きの場合は、ブース内に人が倒れていて内側に開けられない時に救出できる機能（非常解グレビティヒンジや非常解笠木戸当りなど）を設けること。
- ・トイレブースの扉が内開きの場合は、ブースを使用していない時は常時開となるようにすること。ただし、学校との協議により、常時閉にすることは可とする。
- ・トイレブースを撤去し補修が必要な部分には事業者の責任において対策を実施すること。
- ・トイレブースを取替えることにより手摺、ペーパーホルダー等の位置を変えないといけないときは事業者の責任において再設置をすること。
- ・トイレブースに手摺、ペーパーホルダー、掃除道具掛を取付ける部分には補強を行うこと。
- ・その他は各メーカー仕様による。

(2) 機械工事

原則、大便器以外の衛生器具の各設備は更新しない。その他給排水設備の更新も行わないが、提案でその他衛生器具や給排水設備を更新することは妨げない。

ア 衛生器具

- ・大便器は、「LIXIL 和洋改修工法」又は「TOTO 和洋リモデル工法」（アルファベット順）により設置する
- ・対象となる和式便器は全て撤去し、2 階以上の階は、床開口を埋めること。
- ・設置する洋式便所設置個所により、小学校低学年児童が主に使用する場所にあつては、TOTO 幼児用便座、LIXIL 親子便座などの設置を行う。

イ その他

- ・露出部分の配管は保温性、腐食及び美観に配慮した仕様とすること。

- ・耐久性やメンテナンス性を考慮した適切な配管とすること。
- ・主要構造部への穴開けは禁止する。(配置変更に伴うコア抜きを行う場合は、既設鉄筋に影響がないように穴開けすること。)
- ・床貫通部の区画を確実に形成すること。
- ・必要なくなった給水管については床下の分岐にてプラグ止めすること(1階については土間下の最寄部でよい。)
- ・ブースの配置上、既設配管から距離のある位置に洋式便器を設置しなければならない、配管を床面に這わせて伸ばす必要が出た場合には必要に応じて溝ばつりにて施工する。
- ・ライニング鋼管とビニル管の接続においては、青銅製インサート入りバルブソケット又は鋼管用ビニルユニオンと異種金属接続用メスアダプタソケットを使用すること。
- ・ライニング鋼管の接続には管端コア入りの継手、弁類を使用すること。
- ・配管を吊る場合は天井材からの固定でなく上階スラブから吊ボルトにて施工すること。
- ・配管の固定は保温ラッキングの上からは行わないこと。
- ・ブースに配管等を固定する場合は下地を入れるなど補強を行うこと。

3 その他

この仕様書にない事項については、協議によって決める。

III 提案事項(提案事例集)

次で定める事項について、提案書の提案に含める場合は本仕様の提案例を標準とするが、より機能が向上する別の提案を妨げるものではない。

1 手摺の設置

ア 提案の留意点

- ・手摺の材質は樹脂被覆(SUS 芯)とする。
- ・ブースには手摺を設置するための補強をする。
- ・手摺付ブースには手摺付洋式便器の表示をする。

2 既設塗装の再塗装(全面)

ア 提案の留意点

- ・既設塗膜の劣化状況を考慮し適切な下地処理を行った上で再塗装を行うこと。
- ・再塗装に使用する材料はVOC適合した材料を使用すること。

イ 提案内容(例)

- ・既設木部の再塗装
- ・既設モルタル部の再塗装

3 給排水管の取替え

ア 提案の留意点

- ・児童・生徒が利用できないフロアが増えるので、施工フロアのローテーション等により、児童・生徒への影響を最小限にすること。
- ・給水管を更新する場合は、可能な限り天井内やライニング内に収めるものとし、やむを得ず屋内露出配管とする場合は、要保温とする。
- ・新設排水管は、現状に合わせて屋内合流式としても良い。

※例外とは、廊下側排水など既設トイレの状況による。

- ・通気は、排水立管及びライニング内排水管の通気を必ず施工する。

イ 提案内容(例)

- ・劣化した給水管の一部の取替え
- ・劣化した排水管の一部の取替え

IV その他

この仕様書にない事項については、協議によって決める。